

生成AIの活用への期待

- 生成AIは、従来の大規模言語モデル（LLM）よりも高度な「意味理解」と「会話」が可能となることから、人間がAIと会話をしながらアイデアを生み出すことや、AI自身にアイデアの提案を依頼することも可能となっている。また、画像生成を行う生成AIの開発も進んでおり、今後も日々の生活や業務について影響を与えていくことが想定される。
- 人口減少下では、労働生産性の向上が重要であり、研究では、生成AIの活用により
 - ・ 10年間で米国の年間労働生産性の伸びを1.5%ポイント弱上昇させる可能性や
 - ・ カスタマーサポートでの労働生産性の向上や、文書作成における作業時間の短縮や質の向上等が明らかにされている。
- 一方、生成AIによって自然な言語等で示される回答は必ずしも正しいものとは限らないため、
 - ・ 生成AIの技術を（一定程度）理解し、業務の中で活かしていくスキル
 - ・ 生成AIによって示された結果を経験やその他の情報から事実かどうかを評価するスキルが重要となってくる。
- 生成AIは、あくまでツールであるという認識の下、最終的な意思決定や評価は人間が行うということを意識した対応が重要となってくる。

これまでのAIや自動化による雇用への影響

新たなテクノロジーが仕事に与える影響

- 新たなテクノロジーによる仕事内容の変化が想定される。
 - ✓ LLMの導入により、米国の約80%の労働者は、仕事内容（タスク）の少なくとも10%が変わるとの研究結果有り。
- 新たなテクノロジーは過度な自動化や格差の拡大、非効率的な賃金の低下、生産性改善の失敗を生み出すとの懸念もあるものの、現時点において深刻な雇用喪失に繋がるとまでの明確な結論はだされていない。

労働生産性/ウェルビーイングの向上

- 先行研究では、タクシードライバーが需要予測AIツールを活用することで生産性の向上が図られたとの結果や、AIなどの新技術の導入により、メンタルヘルスやワークエンゲイジメントが改善したとの結果も得られており、AI等の活用で、労働生産性やウェルビーイングの向上が期待される。

新たな労働需要の可能性

- AIの普及により、新たな労働需要が創出される可能性がある。（例えば、AIシステムの使い方や顧客に対してAIのアウトプットを説明する仕事、AIシステムのパフォーマンスを監視する仕事等の創出が想定される）

新たなテクノロジーと雇用の共存に向けて

- 労使コミュニケーションを通じ、新たなテクノロジーを円滑に職場へと導入していくことが求められる。

新たなテクノロジーが雇用に与える影響を踏まえた5つの政策の方向性

1. 労使コミュニケーションの深化

- 労使コミュニケーションを活性化させ、労使双方の納得感を高めながら、新たな技術の円滑な導入を行うことが重要。
- 生成AI・AI等の活用促進のため、社内ポータル等を活用した社内コミュニケーションの深化を図ることや、地域の関係団体が参画する地域別や産業分野別の協議体を立ち上げ、技術革新等に対応できない企業や労働者を地域全体で支えることが重要。

2. モニタリング及び情報提供/マッチング機能の向上

- 新たなテクノロジーの進展により、求められるスキル・タスクが大きく変わる可能性がある。政府はこうした変化のモニタリングを行うとともに、job tag等において、職業に求められる知識・スキルなどについて広く情報提供を行うことが必要。
- 技術変化に合わせて、外部労働市場のマッチング機能の向上が必要となる。ハローワークの就労支援機能の充実と、民間人材ビジネス等におけるHRテクノロジーを活用したサービス機能の向上等が期待される。

3. キャリア形成支援・職業訓練の充実

- 技術変化に即した企業内での人材育成を強化していくと共に、労働者による自律的なキャリア形成を支援することが重要。
- 加えて、産業界のニーズを踏まえた公的職業訓練の充実、デジタル人材育成のための「実践の場」開拓モデル事業、専門実践教育訓練給付における職業能力向上に資するAIを含むデジタル関係講座の拡大、人材開発支援助成金の活用促進、ITスキル標準等の速やかな更新等を通じて、デジタル人材の育成を推し進めていくことが重要。

4. ウェルビーイングの実現に向けたAIの活用促進

- 生成AI・AI等の活用の際には、労働者が過度な責任や業務負担を負うことがないように、働き方改革を同時に進めるなど一層のウェルビーイングに配慮した対応が求められる。
- 生成AI・AI等についての高度な知識・スキルを有していない労働者であっても活用できるよう、ユーザーフレンドリーなユーザーインターフェースが今後開発されていくことが期待される。
- 生成AI・AI等の効果的な活用が、社会全体で進むよう、生成AI・AI等の活用についての好事例を収集し、横展開していくことが重要。

5. テクノロジーに代替されないスキルの深化

- 労使でのコミュニケーションを通じて、どのようなタスクを人間が担えば付加価値が高いのか、またどのようなタスクをテクノロジーが担えば効率的になるのかを日々検討し、人間が担う付加価値が高いスキル・タスクの深化を図っていくことが求められる。